

## なぜ勉強するのでしょうか？

---

小児科にはお子さんが学校に行かなくなって困ったという相談が結構あります。学校に行くように促してもうまくいかず、逆に「なんで学校に行かなくちゃいけないの？ どうせ勉強したって成績上がらないし」と聞かれて答えに窮したというお話を聞きます。実際のところ勉強にどんな意味があるのでしょうか？

ペリー幼児教育プログラムという米国の有名な研究があります。貧困層の幼児に2年間の教育を行った後に40年間追跡し、受けなかった子どもたちと比べた調査です。幼児教育を受けた子は、知能テストの成績は変わらないものの、高校卒業率、収入、家庭を持つ率、精神疾患にかからない率などがはるかに良かったのです。つまり、「教育を受けることで知能は変わらないけれど幸せになれる可能性が高まる」ことを示しています。また、この研究で行われた幼児教育の特徴は、知識を学ぶとことよりも、「課題に対して落ち着いた気持ちで粘り強く取り組み、他者と意思疎通し協力も得ながら、正解にたどりつく」能力、正式には「非認知能力（社会情緒的スキル）」の習得を重視した点にあります。この「非認知能力」は企業などでも最近重視されている、社会で生きてゆくために大切な能力です。

一方、従来日本の教育が重視してきたのは「認知能力」と言われ、知識重視の勉強です。もちろん、知識型の勉強にも意味がないわけではありません。多くの情報は言葉を聞く・読むことで得ているので、基本的な読み書き算数は最低限身に付けておきたい能力です。最近の日本の学習指導要領は認知能力だけでなく非認知能力の習得を意識した項目が取り入れられ、これからの時代にふさわしい内容に変わりつつあるようです。

ただし、学校に行けない子どもたちには、いじめや友達関係・先生との関係の悩みなど、学校自体が辛い場所であることが多いです。この場合は元の学校に戻るものが必ずしも正解ではありません。近年、適応指導教室、フリースクール、通信制高校等々多様な学びの場が増え、ここで学んで社会に羽ばたく人も着実に増えています。「元の学校」「普通の学校」にこだわり過ぎずに、それぞれのお子さんに合った学びの場を考える必要もあるかもしれません。

さて、明日からはお子さんに「なんで学校に行かなくちゃいけないの？」と聞

かれたら、こう答えましょう、「勉強することは将来の幸せに繋がるからなんだよ」と。

【小児科診療部長 大木 康史】

